

(市川市PTA連絡協議会研究大会報告書)

第6分科会 テーマ 小学・地域ぐるみの防犯1 司会 PTA連絡協議会監事(大野小)

<発表内容>

参加各校より実施している事例をお聞きし、その中で特に多かった「パトロール隊」と「かけこみ110番」について意見交換を行なった。

「パトロール隊」に関しては、主に立ち上げについて。「かけこみ110番」に関しては機能しているのかなどを中心に話し合った。

「パトロール隊」の立ち上げについて

PTA組織だけで成り立っている地域は希少で、大半は自治会や地域の諸団体(老人会や商店街など)と協力し、パトロールを実施しているのが現状である。

したがって、パトロール隊を立ち上げる際に不可欠なのは、学校、PTA、地域諸団体が繋がりを持ち互いに理解を深めるという事であろう。

一部では地域団体の方々がすでに実施しており、学校やPTAが協力する形もあるようだが、その際に学校やPTAの活動が地域に認識されている事が協力体制を作る重要な要素だと考えられる。

また、特定の団体に負荷が集中する事はパトロールの充実に支障をきたすと思われる。

以上のことから、「パトロール隊」を立ち上げるためには、学校やPTAはもちろん、地域団体との相互理解から始める必要があると思われ、パトロール活動に限らず、日頃から互いに接点を持ち、より多くの目で子どもたちを見守るという意識が重要だと考えられる。

「かけこみ110番」の機能について

参加各校での共通事項は、ポイント数を増やしたい、子どもたちにポイントの所在を認知させたい、ポイントは不在が少ない所をお願いしたいなどであった。

ポイントに関しては、児童がいる家や商店などが多く、特に児童がいる家に関しては、卒業してしまうと辞退されてしまうケースも多く、ポイント数の確保は難題である。

また依頼しているポイントも、不在が多いのでは実際には機能していないとの声もあり、抑止力としてその存在は有効であるが、有事の際に機能しないという不安は残る。

ポイントの認知に関しては、数校でウォークラリーなどを行い、子どもや保護者への周知を図っている
市川市PTA連絡協議会

ようだが、大半の学校区ではポイントの設置で終始しているようである。

以上のことから、「かけこみ110番」が機能しているとは考えづらく、今後はポイントの充実と認知を積極的に行なうことで、抑止力としてだけでなく、本来の目的であろう子どもたち安全地帯としての機能を充実させる事が重要だと思われる。

<単Pとして生かせること>

今回の分科会で、地域との繋がりを密にするという事が重要だと再認識できた。

パトロールに関しては、各団体が個別で行なうのではなく、連絡を取り合うことで重複する場所や時間を調整し、無駄のないスケジュールの検討することで、より有効な防犯対策になると考える。

かけこみ110番に関しては、すでに実施している校区もあるようだが、ウォークラリーなどの手段で子どもだけではなく、地域の方々にも理解していただく必要を感じる。

単Pとしては、学校の事に終始するのではなく、小さなことでも地域の方々との接点を持ち、情報の交換や、協力体制を強化すべく、コミュニティーサポート委員会などを有効に活用し、地域との相互理解を深めて行くべきだと考える。

<特に印象に残った点>

地域と学校やPTAとの関係が希薄だと感じられる校区が思っていた以上に多かった。

すでに素晴らしい活動をされている校区もあり、校区による防犯への思いの温度差を感じた。

防犯への取り組みに悩んでいる校区もあり、今回のような取り組みで、各校から様々な事例を聞くことで、解決の糸口を見つげられた校区もあり、校区という枠を超えた今回のような研究会が自身を考えていた以上に有意義であると感じた。

市川市PTA連絡協議会